

メーカー	Mercedes Benz
タイプ	W112 300SEラング
年式	1,963
全長(mm)	4,975
全幅(mm)	1,795
全高(mm)	1,455
重量(kg)	1,275
エンジン	直列6気筒 SOHC
排気量(CC)	3,000
馬力(hp)	160

ベースとなったのは、1959年にデビューした「220系」（コードナンバーW111）です。

世界のスタイリングリーダーであった、米国製キャデラックなどに影響を受け、後部のテールフィンから“Fintail（フィンテール）”と呼ばれ、日本では「羽根ベン」の俗称で呼ばれました。

当初、W111のエンジンは2.2L直列6気筒SOHCで95hp程度でしたが、1961年にエアサスペンションや4輪ディスクブレーキを装備し、3L直列6気筒SOHCのエンジンを搭載した**W112**が追加されました。

更にその「300SE」のボディをセンターピラーの直後で切断し、ホイールベース／全長を100mm延長したストレッチモデルが、1963年に追加された「**300SEラング**」です。

「ラング」とはドイツ語の「Lang」（英語のLong）で、長いという意味ですが、当時ヤナセでは「300SEロングセダン」と呼んでいたそうです。ちなみに次世代モデルからは「300SEL」という名称になることは、メルセデス好きならご存知だと思います。

1965年、後継のW108が発売されることに伴い、**W112のセダンが生産終了**し、次いで1968年にW111のセダンも生産終了しますが、クーペ、コンバーチブルは改良を受け、1971年まで継続生産されました。なお、同じプラットフォームを持つW110がありますが、こちらはEクラスの系統とする説が有力になっています。

現在なら「S550Long」あるいは「S600Long」にあたる、当時のラインナップのなかで最高級だった「300SEラング」。新車価格は530万円で、代表的な国産高級車である「トヨペット・クラウン・デラックス」のほぼ5台分に相当しました。

この車両は1963（昭和38）年9月22日、吉田元首相に納車した車両です。納車の発端は元首相が首相在任中に西ドイツを訪問したとき、アデナウアー首相にベンツの購入を約束したことでした。しかし、当時は輸入制限があり、首相といえども購入が不可能だったため、なかなか約束を果たせませんでした。1961（昭和36）年によく一般用自動車の入札制度が実施されましたが、一般入札だとマスコミの注目を浴びる懸念があることから、元首相が購入を躊躇されているとの情報を得ました。

そこで梁瀬次郎社長は、間もなく発表される予定だったベンツ300SE ロングの第一号車を納入することを約束したのです。そして9月に入荷した車を大急ぎで整備するとともに、当局の配慮によって異例の短さで型式認定を受けました。その後、元首相の誕生日である9月22日に、誕生日プレゼントとして梁瀬次郎社長が用意した赤いバラとともにベンツの鍵を神奈川県大磯の吉田邸に納車しました。元首相は納車された日に早速アデナウアー氏に「われ約束を果たせり。新しいベンツに本日から乗っている」という電報を打ちました。するとアデナウアー氏からは直ちに「約束をお守りいただいたことを心から感謝する」という返事が届いたそうです。

本車両は現在、現オーナーからのご依頼でエアサスペンション補修など、レストア作業中の車両です。